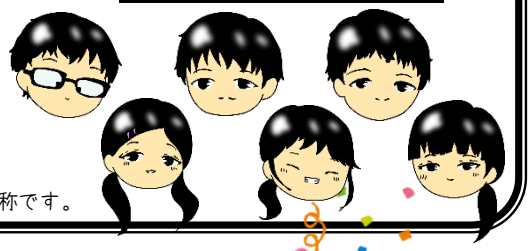
四国中央市ボランティア市民活動センター機関紙

平成 31 年冬　創刊号

ボラ7（セブン）通信

「ボラ７」はボランティア市民活動センターでサポートする高校生ボランティアグループの名称です。



ボランティア市民活動センターの機関紙を創刊！

ボラ７のメンバー
上段左から井川さん、河村さん、佐藤さん
下段左から大廣さん、工藤さん、乾さん

ボランティア市民活動センターは、市民の皆さんのボランティアや市民活動を支える機関として、平成１９年６月に開設し、様々な分野で活動している方々を支援してきました。市内には誰かのために、また地域の課題を解決するために自発的に活動している個人や団体がたくさんいます。こうした活動を多くの方に知ってもらい、ボランティアは誰にでもできることや、活動の輪をさらに広げるために「ボラ７通信」を発行することにしました。

本紙の作成は、今年度からボランティア市民活動センターのイベントや運営をサポートしている高校生ボランティアグループ「しこちゅ～ボラ７」と職員が一緒に行っています。ボラ７のメンバーは、三島高校の１年生です。紙面には高校生ならではの視点や表現があふれていますので、ぜひご一読ください。

ボランティア市民活動センターって？

ボランティア市民活動センターは、ボランティア活動をしたい人や団体と依頼したい人（施設など）の相談を受け、ボランティアをつなぐマッチングを行っています。ボランティア活動をしたい人や団体は、ボランティア市民活動センターに登録することでボランティア活動等の派遣依頼やセンター内にある機材等を利用することができるようになります。少しでも興味のある方は、ぜひご連絡ください。ホームページにも詳細な情報を掲載していますので、ご覧ください。

私たちがお待ちしています♪

連絡先：ボランティア市民活動センター　TEL. 28-6039

四国中央市ボランティア市民活動センター　検索

10/6（土）ボランティア市民活動交流会

私たちボラ７（高校生ボランティア）は、運営スタッフの一員として、市民交流棟で行われたボランティア市民活動交流会に参加し、司会をはじめ受付やケーブルテレビのリポーターなどを務めました。

交流会には約 100 名の参加があり、普段の活動内容の発表や意見交換など、にぎやかな交流会となりました。交流会に参加していた団体のうち、いくつかを紹介したいと思います。

－ボランティア団体と活動内容の紹介－

◆おさがりバンク

子どもの使い終わった制服やかばんなどを預かり、新たに必要とする家庭に提供しています。

◆ディア・フレンズ

音楽を通じて、施設での慰問、児童クラブやイベントなどで公演を行っています。

◆ユニバーサル柔道アカデミー

柔道を楽しみながら、様々な分野とコラボし、親子の健やかな成長をサポートしています。

創刊号 特別企画！
市長インタビュー

篠原 実 市長 ＆ ボラ7（セブン）（高校生ボランティアスタッフ）

私たちボラ７（高校生ボランティア）は、記念すべき創刊号を発行するにあたり、ボランティア活動に対して篠原市長がどのような思いを持っているのかを知るために、市長室にてインタビューをさせていただきました。

篠原市長にお会いするのは初めてで、話すまではどんな人だろうと不安でしたが、会ってみるととても気さくで面白い方だったので、緊張がほぐれました。私たちの素朴な疑問や高校生に対する期待などを聞くことができたので、その内容をお伝えします。

【質問】市長になろうと思った理由を教えて下さい。

市長になる前は県議会議員をしていました。井原前市長の退任に伴い、誰かが市長を務める必要があり、自分が市長となって地元のために尽くしたいと思ったからです。

【質問】篠原市長は普段どのような仕事をしていますか。

普段は、職員が作成した書類を決裁しています。全職員の仕事を先導する舵取りのような役割です。

【質問】篠原市長のボランティア経験や感想を教えてください。

家の前を掃除している人や公衆トイレを掃除している人を見ると、感謝の気持ちが沸きます。ボランティアだけでなく、何事においても自分が納得するまで一生懸命に努力して、自分のこころと勝負しながら情熱を持ち続けることが大切だと思います。

【質問】篠原市長はどのような分野のボランティアに興味がありますか。また、その理由を教えて下さい。

タバコのポイ捨てをよく見かけます。市長を退職して時間に余裕ができたときは、タバコなどのゴミ拾いを行いたいです。また、以前スポーツ関係の皆さんにお世話になったので、恩返しをするためにもスポーツに関係することに取り組んでみたいと思います。

【質問】書道パフォーマンス甲子園など高校生ボランティアが様々なイベントで活躍していますが、このことについてどのようにお考えですか。また、これから高校生ボランティアに期待することなどを教えて下さい。

書道パフォーマンス甲子園は、これからも高校生が主体となって運営してほしいと考えています。また、高校生には自分にしかできないことや地域行事に積極的に参加してほしいです。

【質問】今後の四国中央市のボランティア支援に対する取り組みについて、どのように考えているか教えて下さい。

国体での民泊を地域でやってくれたことは大きな成果でした。この成果をつなげるためにも、公民館単位で地域が交流してまとまってほしいと思います。それが、地域の人達のコミュニティの向上につながり、地域におけるボランティア活動の活性化につながると期待しています。

― インタビューを終えて ―

篠原市長は想像していたよりも明るい方で、私たちの質問にすぐに答えてくれること、そしてその答えがまとまっていることに驚きました。市長さんの人柄や仕事の内容などが少しわかった気がします。

イベント・講座レポート

市内の様々な行事において高校生ボランティアなどが活躍しています。今回は子育てフェスタとサイクリング大会で活躍する高校生ボランティアを取材したほか、災害ボランティアに参加した大西裕之さんから話を聞きました。

10/28（土） 子育てフェスタ

伊予三島運動公園体育館で四国中央子育てフェスタ2018が行われました。

今年で９回目を迎える子育てフェスタは、子育て支援のネットワークづくりや保護者への情報提供、共有を目的としています。当日は、たくさんの活動団体や学生ボランティアの皆さんが参加されていて、それぞれのボランティアに対する思いを聞いて、よりボランティアへの興味や関心が高まりました。

メインステージで行われていたCarry on Soundさんの演奏に、私たちも参加しました。アフリカ音楽にのせてリズムと音で五感に働きかける手法を用いて、心身の活性化を促す音楽療法を行っています。

11/4（日） サイクリング大会

晴天のサイクリング日和の中、別子・翠波はな街道サイクリング大会が嶺南地域を中心に開催されました。この大会には１６名の高校生がボランティアとして参加していて、今回、てらの湖畔公園で活動していた土居高生にインタビューしました。

Q.このボランティアに参加したきっかけは？

Ａ.自分にできることをしたいと思ったので、参加しました。

Q.ボランティアの魅力は？

Ａ.地域のボランティアに参加することで、学校外の人とかかわることができ、つながりを広く感じられるところです。

Q.今まで何かボランティア活動に参加されましたか？また、その感想を教えてください。

Ａ.子育てフェスタに参加しました。参加してみて、地域の人たちは優しく、心の温かさを感じました。

― レース参加者の声 ―

レース中は一人で走っているので、ボランティアの方がいるとほっと安心します。

災害ボランティア

大西裕之さん

市では西日本豪雨災害で被災した大洲市に、７月22日、８月５日、９月22日の３回、災害ボランティアバスを企画運行しました。最初の２回は一般募集、３回目は川之江高生を募集し、今回、７月と８月の２回のボランティアに参加された大西裕之さんにインタビューをしました。なお、土居高校と三島高校でも企画されていましたが、台風の影響で中止になりました。

ボラ７井川も参加予定でしたが、活動できずに残念でした。

Q.参加したきっかけは

Ａ．ノウハウも土地勘もないのに足手まといになるのではという思いがあり、市が募集していた災害ボランティアバスの企画に応募しました。

Q.現地でどのようなことをしましたか

Ａ．現地では、それぞれ４～５時間ほど活動しました。２０分ごとに休憩をはさみながら作業したのですが、その休憩がなければ１日を通して活動をすることはできなかったと思います。床下の汚泥をスコップでかき出したり、畳を運び出したりしました。家の中の衣装ケースにまで水がたまっているところがあり、汚水のにおいが大変でした。

Q.現地でどんなことを考えていましたか

Ａ．「誰かのために」という思いではなく、無心で作業をしました。現地の人との会話はほとんどありませんでしたが、不安や衝撃がある中で日々をどのように過ごしているのか、と想像しました。

Q.今後はどのような活動をしていきたいですか

Ａ．地元が被災した時に、自分から動けるように知識や防災意識を身につけていきたいです。また、自分が楽しめることを続けて、自分を生かせる場所を見つけたいです。

8/27（月） ボランティア市民活動研修会

「子供たちの未来に希望を～ケニア・ストリートチルドレンと共に～」の講演会が保健センターで行われました。講師はケニアＮＧＯモヨ・チルドレン・センター（ＭＣＣ）の松下照美さん。講演会では、ＭＣＣが普段行っている薬物被害や貧困に苦しむ子どもたちのための孤児院や農園の運営、小学校への給食支援、現在のケニアの子どもたちの状況について話してくれました。松下さんの講演を聞いて、今の自分たちの生活がどれほど恵まれているか改めて感じさせられました。この経験は、これから自分たちがボランティアを続けていく上での基盤になると思います。

ボランティア市民活動センターからのお知らせ

ボランティア活動紹介番組 やってみんの

四国中央テレビにおいて、ボランティア団体の活動紹介番組「やってみんの」が放送されています。「やってみんの」では、ボランティア団体の活動の様子やボランティア市民活動センターを紹介していますので、ぜひご覧ください。また、市民交流棟の２階でコスモステレビを放映していますので、お気軽にお立ち寄りください。

マジッククラブ

わおん～♪

青空会

いりこ倶楽部

ボランティア学習

盲導犬ピーチと交流

サークルはなびらと点字学習

視覚障がい者の方と交流

サークルのぎくと手話学習

ボランティア市民活動センターでは、人と人とが支え合う協働のまちづくりをテーマに「ボランティア学習」を行っており、春は北小学校、秋は金生第一小学校で実施しました。学習では児童と障がい者の方が交流し、障がい者の方への理解やコミュニケーションの大切さを学んだほか、どのように行動することが必要なのかを考えました。この他にも、ボランティア団体による点字や手話、車いす体験などを行いました。

募集

◆傾聴ボランティア　つばき

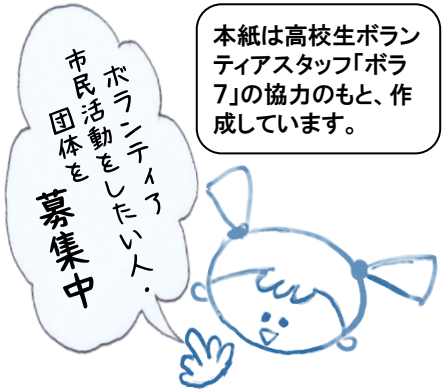
傾聴ボランティア（心を込めて人の話を聞くボランティア）は、「身の回りに話をしたい相手がいなくて困っている。」、疎外感・孤独感を感じ「誰かと話がしたい。」と思っている方と話をするボランティアです。現在、傾聴ボランティアスタッフを募集しています！一緒に活動をしてみませんか？

連絡先：ボランティア市民活動センター
TEL. 28-6039

2019 3/2（土） 災害ボランティア研修会

大規模災害が発生した際の対応や日頃からの取り組みについて学んでみませんか？下記のとおり研修会を開催しますので、お気軽にご参加ください。

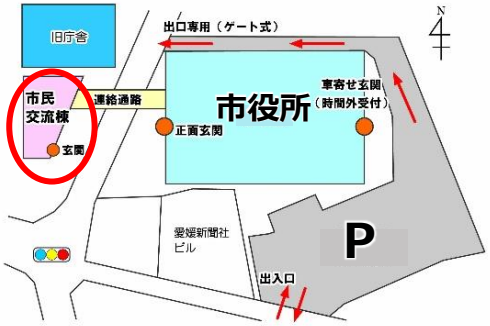
時　間　15:00～16:30（予定）
会　場　消防防災センター3階大会議室
内　容　大洲市社協の職員等を招き、避難所運営等に関するシンポジウムを予定※変更する場合があります
連絡先　ボランティア市民活動センター
TEL. 28-6039



本紙は高校生ボランティアスタッフ「ボラ7」の協力のもと、作成しています。

編集後記（高校生スタッフ）

編集長　工藤（高一）
機関紙を作るにあたり、今までできなかったようなことをたくさんさせていただきました。取材などをしてみて改めてボランティアの良さを感じました。

副編集長　井川（高一）
何を伝えたいか、ということを意識して制作に取り組みました。慣れないパソコン操作で大変なこともありましたが、協力して頑張りました。

発行：ボランティア市民活動センター
取材：しこちゅ～ボラク（高校生ボランティア）
月曜日～金曜日 10:00～18:30
土曜日 10:00～17:00
※日曜日、祝祭日はお休みです。
〒799-0497 四国中央市三島宮川 4-6-55
（市役所市民交流棟の１階です）
TEL.0896-28-6039　FAX.0896-28-6160
E-mail:vsc@city.shikokuchuo.ehime.jp